

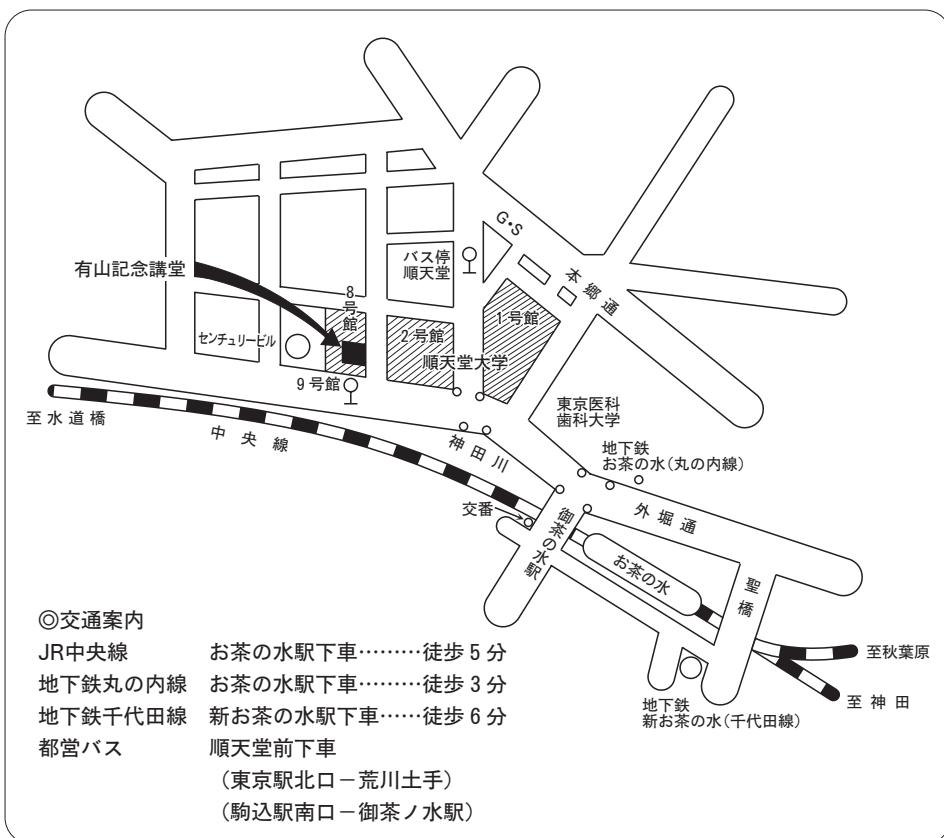
第 531 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プロ グ ラ ム

日 時 平成17年7月16日(土)午後2時00分

場 所 順 天 堂 大 学 有 山 記 念 講 堂



演題の申し込みについて

- 講話会の当日、文書で提出してください。
- 抄録(160字内外)をおつけください。
- 原則として指定発言者をご記入ください。
- 演者、指定発言者は、当日抄録(200字以内)を提出してください。(日本小児科学会誌掲載の為)

世話人

プログラム係 滝田 順子 03(3815)5411
東京大学小児科 FAX 03(3816)4108
会場係 大塚 宜一
順天堂大学小児科 03(3813)3111
事務局 03(5388)7007
事務局電子メール shounihifuka@joy.ocn.ne.jp

第 531 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題 6分, 指定発言 5分, 追加討論 2分以内, 厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:30

座長 住友 直方 (日本大学板橋病院小児科)

1) MOF を契機に発見された僧帽弁閉鎖不全の 5カ月女児例

○中村 美影, 長井 誠, 平良 尚子, 渡辺 嘉章, 山中 岳,
高見 剛, 河島 尚志, 武隈 孝治, 星加 明徳 (東京医科大学小児科)

5カ月女児、発熱、嘔吐後に呼吸障害を認め当科緊急入院。高度の僧帽弁閉鎖不全(MR)に起因する両心不全により DIC・MOF 状態に陥ったが、各種集中治療により救命し得た。約 1年後に開胸根治術施行したところ、僧帽弁後尖に亀裂が認められた。後尖亀裂による乳児孤立性僧帽弁閉鎖不全は稀であり、若干の文献的考察を含め報告する。

指定発言 富松 宏文 (東京女子医科大学循環器小児科)

2) 心雜音を契機に発見された右冠動脈瘻の 1 例

○宮崎 菜穂, 稀代 雅彦, 田原加奈子, 大高 正雄, 織田 久之,
大槻 将弘, 秋元かつみ, 大久保又一, 山城雄一郎 (順天堂大学小児科・思春期科)

症例は生来健康な 4歳男児。上気道罹患時に連続性心雜音を指摘され、心臓超音波検査にて右冠動脈拡張と心室中隔付近での右室への異常血流を確認。心臓カテーテル検査の結果、右冠動脈右室瘻と診断された。冠動脈瘻は狭心症、心不全および感染性心内膜炎発症の可能性がある比較的稀な疾患であり、文献的考察を加え報告する。

3) 心室頻拍で発症し、体外補助循環により救命した劇症型心筋炎の 1 例

○平野 幹人, 阿部 修, 宮下 理夫, 谷口 和夫,
鮎沢 衛, 住友 直方, 岡田 知雄 (日本大学板橋病院小児科)

症例は 6歳女児。発熱、手足の関節痛、胸痛を主訴に他院を受診し、心室頻拍(VT)のため、紹介され入院した。入院後、心不全は悪化し、VTrate の上昇と意識消失が起こったため、劇症型心筋炎と診断し、直後から体外補助循環を開始し、48 時間後に離脱し回復した。心筋炎発症時の不整脈と治療適応について検討する。

第 2 グループ 14:30—15:00

座長 金森 豊 (東京大学小児外科)

4) *Clostridium perfringens* による腸炎、敗血症を発症し、緊急手術を施行した Hirschsprung 病の 1 例

○柳原 裕史, 山之上 純, 森田 清子, 絹巻 晓子,
小高 学, 柳原 知子, 和氣 彰子, 松岡 典子,
小鍛冶雅之, 寺川 敏郎, 遠藤 泰弘, 横路征太郎 (東京都立府中病院小児科)
廣部 誠一 (東京都立清瀬小児病院外科)

Hirschsprung 病に伴う細菌性腸炎は時として致命的ともなりうる危険な合併症である。今回、診断がついていない状況下で腸炎、敗血症を発症してショックに陥り、緊急手術を施行した Hirschsprung 病の乳児例を報告する。このような症例は稀ではあるが、小児救急医療で念頭に置かなければならないと考える。

指定発言 鎌形正一郎 (東京都立清瀬小児病院外科)

5) 胃食道逆流症（GER）に対する腹腔鏡下噴門形成術

○浦尾 正彦, 山高 篤行, 小林 弘幸, 矢内 俊裕, 宮野 武 (順天堂大学小児外科・小児泌尿生殖器外科)

小児の GER に対して当科で腹腔鏡下噴門形成術を施行された 22 例を検討した。術中合併症は見られず、術後合併症も再発が 1 例のみであった。術後はほとんどの症例で呼吸器症状の減少、体重増加など QOL の著明な改善が見られた。当科での手術法を供覧するとともに問題点について報告する。

6) 化学療法により下肢切断を免れた乳児線維肉腫の 1 例

○嶋 晴子, 嶋田 博之, 島崎 紀子,

吉原 宏樹, 森 鈴也, 高橋 孝雄 (慶應義塾大学小児科学教室)

松岡健太郎 (国立成育医療センター臨床検査部病理)

2 カ月男児。生後 3 週、右下腿の軟部腫瘤に気づく。病理所見および ETV 6 -NTRK 3 融合遺伝子陽性から乳児線維肉腫と診断。病変が下腿全体に及んでいるため下肢切断も考慮された。化学療法 4 クール後、腫瘍消失。瘢痕組織に微小病変が残存していたため、2 クール追加。治療終了 1 年で再発なく、下肢切断を免れた。

休 憩 15:00—15:10

感染症だより 15:10—15:20

座長 山本 光興 (山本小児科)

南谷 幹夫 (東京都医師会感染症予防検討委員会)

教 育 講 演 15:20—15:50

座長 伊藤 裕司 (国立成育医療センター新生児科)

低出生体重児をめぐる栄養と成長の諸問題

板橋家頭夫 (昭和大学小児科学教室)

現在、低出生体重児の成長と栄養に関する諸問題として以下の点が上げられる。1) AGA (appropriate for gestational age) 極低出生体重児では NICU 入院中の平均的な成長が予定日になんでも胎児より劣る extra-uterine growth restriction (EUGR) が問題となっており、出生後早期の栄養管理の重要性が認識されている。2) small for gestational age (SGA) 児では低身長のリスクが高いことや、代謝症候群との関連性が問題となっている。本講演ではこれらの諸問題について解説するとともに、現状での対応策についても言及したい。

第3グループ 15:50—16:30

座長 永田 智（順天堂大学小児科・思春期科）

7) 防風通聖散の投与により、肥満の改善した発達障害児の4例

○道下 崇史, 伊集加奈子, 西口 康介, 福原 淳示,
玉木 久光, 知念 詩乃, 大森 多恵, 伊藤 昌弘,
三沢 正弘, 大塚 正弘, 関 一郎（東京都立墨東病院小児科）

発達障害児では、肥満に対し、食事療法や運動療法などの行動療法は困難な場合が多く、対処法もなかった。しかし、肥満による生活習慣病は、今後の重要な課題と考えられる。肥満を有する発達障害児に対し、防風通聖散を投与し、改善を認めた4例につき報告する。

8) ステロイド反応性ネフローゼ症候群を発症した姉妹例

○直井 和之, 本山 治, 中山 智孝, 佐藤 真理, 松裏 裕行,
小原 明, 佐地 勉, 諸岡 啓一, 月本 一郎（東邦大学第一小児科）
飯高喜久雄（大和市立病院小児科）

ネフローゼ症候群の姉妹例を経験したので報告する。姉妹共にステロイド反応性のネフローゼ症候群で、姉は2歳2ヶ月時に顔面・四肢の浮腫にて発症し、3歳7ヶ月時に再発したが、現在9歳8ヶ月でステロイド療法は中止して経過観察中である。妹は5歳6ヶ月時蛋白尿、浮腫にて発症し、現在5歳10ヶ月でステロイド漸減中である。

9) 非チフス性サルモネラ感染症後の便中排菌状況および薬剤感受性の検討

○南風原明子, 宮田 有里, 斎藤 洋平,
栗屋 敬之, 小口 学, 高田 昌亮（東京都立豊島病院小児科）
鈴木 恭子（順天堂大学浦安病院小児科）

サルモネラ感染症例32例（男22、平均4.8歳）の感染後の排菌状況、薬剤感受性を検討。除菌を確認した27例の除菌までの期間は平均73日（13～295日）で、100日以上の症例は、4歳以上で1/11例に対し、4歳未満では6/16例と長期間排菌例は低年齢層に多かった。全例FOM感性であったが、ABPC耐性1例、フルオロキノロン低感受性1例を認めた。

指定発言 柏 真知子（東京都立豊島病院検査科）

10) MRSAによる乳児化膿性骨髄炎の1例

○平林 真介, 神谷 尚宏, 稲井 郁子, 草川 功, 細谷 亮太（聖路加国際病院小児科）

生後1カ月のMRSA骨髄炎を経験したので報告する。右上肢を動かさないことを主訴に外来を受診。受診中より、発熱が出現したため入院。造影MRIで右鎖骨周囲に増強効果が認められ、血液培養よりMRSAが検出された。MRSA骨髄炎と診断し、VCMを4週間投与し軽快した。乳児の化膿性骨髄炎は症状がはっきりしないため、注意を要すると考えられる。

運営委員会だより

1. 6月の講話会参加者193名、新入会5名（会員数1870名）、ベビーシッタールーム利用者3名。
2. 運営委員会では、地方会講話会を活発な意見交換の出来る場にしようと考ておりまます。つきましては、
発表される演題に関し、診断や治療で苦慮された点を一枚のスライドにまとめて合わせてご発表頂くよう、
ご協力お願い申し上げます。また、指定発言なるべく取り入れるよう、お願い申し上げます。
3. 東京都地方会のスケジュールが順天堂大学医学部小児科のホームページ（下記）に加わりましたのでご参考下さい。その他、地方会の運営などに関し、ご意見、ご希望などございましたら、どうぞご連絡頂きますよう、宜しくお願ひ申し上げます。<http://www.timelyhit.ne.jp/ped-juntendo>
なお、7月からの予定は下記の通りです。

第531回 平成17年7月16日（第3土曜日）

8月はお休み

第532回 平成17年9月17日（第3土曜日）

第533回 平成17年10月22日（第4土曜日）

11月はお休み

第534回 平成17年12月17日（第3土曜日）

第535回 平成18年1月21日（第3土曜日）

第536回 平成18年2月25日（第4土曜日）

第537回 平成18年3月18日（第3土曜日）

Computer Presentationをご希望の演者の先生方へ

Computer Projectionによる発表を受け付けます。ただしWindowsのみで下記要領でお願いいたします。
Powerpoint 2000以上で作成、Font文字はPowerpoint備え付けのみ。CD-RもしくはFloppy Diskにて、
第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付
まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルスcheckをお願いいたします。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設いたしました。利用ご希望の方は、利用当日の1週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・及び預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193

演者の先生方へのお願い

一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願いいたします。（原稿は活字もしくはワープロ文字で）

WAKODO

薬価基準収載

気管支拡張剤
テオフルマート® ドライシロップ 20%
TEOFURMATE Dry Syrup 20%
(テオフィリン徐放性ドライシロップ)

劇薬、指定医薬品



※効能・効果・用法・用量・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご覧ください。

資料請求先

販売元 和光堂株式会社
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3

製造元 東和薬品株式会社
〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号